



いざァ！武士の館 金山城跡へ ～ 戦国時代に思いを馳せる ～

中世の貴重な城郭 国が史跡指定

五月晴れの5月19日(土)、関東七名城の一つに数えられる群馬県太田市内の金山城跡を訪れた。大宮駅から東武線にゆられて2時間弱、伊勢崎線の太田駅に着いた後、徒歩で、史跡「金山城跡」方面に向かった。金山城は戦国時代に造られた城で中世の貴重な城郭として、1934(昭和9)年 県内では初めて国が史跡指定。2006(平成18)年には公益財団法人日本城郭協会より「日本100名城」に選定

金山城跡へ

歴史浪漫歩き

8時20分、東武大宮駅改札口前には史跡クラブのメンバー15人が集まった。目的地は関東地方の北部、群馬県南東部(東毛)にある人口約22万人の太田市内「金山城跡」。太田駅発着で合計8・4kmの道のりをのんびり楽しく「歴史浪漫」に思いを馳せながら戦国時代の城郭跡をめぐった。金山城跡は、左記のとおり関東七名城に数えられている。

- ① 川越城(埼玉県川越市)
- ② 忍城(埼玉県行田市)
- ③ 前橋城(群馬県前橋市)
- ④ 金山城(群馬県太田市)
- ⑤ 唐沢山城(栃木県佐野市)
- ⑥ 宇都宮城(栃木県宇都宮市)



金山城跡の大手虎口

⑦ 多気城(茨城県つくば市) あるいは太田城(茨城県常陸太田市)
現在ほどの城も天守は現存せず、他の構造物や城郭の多くが破壊や市街地化されて当時の面影は薄くなっている。
金山城跡の特徴は？
築城は1469(文明元年)

ここまで来たから、「城郭用語」も学ぼう！

- ★**堅堀**(たてぼり)→斜面からの敵の侵入を防ぐために掘られた防御施設。
- ★**曲輪**(くるわ)→「郭」とも書く。城の位置する地形によっても異なるが、丘陵や尾根を切り盛りして土塁や柵、塀で囲み居を構えた平場を言う。
- ★**虎口**(こぐち)→城や曲輪への出入口の構えを言う。枳形など、防御と攻撃の両方の機能を備えた施設として中世に創意工夫された。単なる門としての出入口から、土塁を巡らせるなど、喰い違いに工夫を施した。
- ★**縄張り**(なわばり)→城郭の設計・計画のこと。曲輪や虎口の位置、土塁、堀切等の防御施設の配置を言う。
- ★**土塁**(どるい)→土居とも言う。曲輪などのまわりに巡らす防御施設。土を高く盛って、その上に柵や塀を施したものが一般的。
- ★**堀切**(ほりきり)→堀には水を入れた水堀と掘っただけの空堀がある。堀切は山城に使われている堀で、尾根を断ち切って簡単に通行できないようにした曲輪を守る施設。

で、標高239mの金山山頂の実城(みじょう)を中心に、

麓にも城主や家臣団の館・屋敷があったと考えられ、根小

四方に延びる尾根上を曲輪として造成。これを堀切・土塁などで固く守った戦国時代の山城だ。特筆されるのは、石垣や石敷きが多用されていることだ。従来、戦国時代の関東の山城には本格的な石垣はないとされていた城郭史の定説が金山城跡の発掘調査で覆された。主な曲輪群は実城・西城・北城坂中・北曲輪・八王子山の砦の4箇所だが、山

屋(城下)を形成していたと見られている。金山城は鎌倉時代に新田義貞がその礎を築いたと言われている。
戦国時代の乱世で何度も実戦を経たが、最後は北条氏の滅亡とともに廃城「1590(天正18)年」となった。以来、実に四〇〇年以上もの間、忘れ去られ放置されていたが、本格的な発掘が始まったのは平成に入ってからであった。

歴代城主はこの間、新田岩松氏、横瀬・由良氏、小田原北条氏が務めた。(裏面参照)

注 大光院など、他の訪問地の記述は紙面の都合上、省略しました。